



## 1. 眼科の特徴

### <臨床面>

臨床の力を育てる王道は豊富で幅広い症例を科学的に経験することです。埼玉医科大学が立地する埼玉県西部地域は首都圏でありながら勉強になる症例が豊富で、眼科臨床能力を身につけるには最適の場所です。他地域では稀な重症糖尿病網膜症や網膜剥離などが埼玉県および一部東京都西部地域の広い医療圏から次々と紹介されてきます。紹介率は常に70%を超えます。この豊富な症例に、最先端の診断機器・手術機器と手術法を駆使して、科学的に診断と治療を行うことにより、みるみる臨床力が身につきます。埼玉医科大学は、最先端の診断機器、手術法、手術機器をいち早く導入しており、効果的に高度眼科診療を学ぶことができます。

特に強い分野は網膜硝子体疾患と緑内障、角膜です。この3つの疾患分野で中途失明原因の約4分の3を占めます。網膜硝子体手術は全国有数の手術件数を誇り、緑内障手術も近年急増しています。また、白内障症例も多く、後期研修医以降の若い医師は多くの執刀の機会を得ることができます。角膜分野は平成26年までは専門医がいなかったために症例数が少なかったですが、平成27年より専門外来を設けて症例数が増えつつあり、また手術では最新の角膜パーツ移植を積極的に行っています。潜在的な患者数は多いので、若い医師でも執刀の機会を得ることができます。他にも眼腫瘍、斜視弱視、外眼部疾患、涙道疾患など幅広い疾患分野をカバーしていることも特徴です。白内障手術の腕を磨きながら、硝子体手術症例や緑内障手術、角膜移植手術を集中的に学び、幅広い疾患分野も経験することで、どのような状況でも自信を持って眼科診療にあたることができる力が身につくでしょう。

### <研究面>

臨床研究と基礎研究をバランス良く行っています。臨床研究は、最近劇的に進歩した光干渉断層計などの眼底イメージング機器を用いて網膜硝子体や緑内障の研究を行っています。眼底イメージング機器の研究開発に力を入れてきた経験から、世界的にも最先端の機器を導入して有利な環境で研究を行うことができます。この臨床研究は、研究歴のない後期研修医でもすぐに始められるもので、研究のいろはを学ぶには最適の研究課題です。眼底イメージング機器を用いて疾患と向かい合いより深く理解することが重要です。一緒に新しい臨床情報を世界に発信していきましょう。基礎研究では主に加齢黄斑変性のゲノム解析や緑内障の原因、遺伝子についての機能解析を行っています。また、角膜の分野では疾患モデルマウスを用いて、酸化ストレスが眼疾患に与える影響を調べる実験や、角膜の培養細胞を用いて病態が角膜に及ぼす変化を調べる実験を行っています。基礎医学にふれることは医師としての懐の深い視点を涵養する機会になるでしょう。

## 2. 診療実績（平成27年）

### 手術件数

白内障	1,393 件	角膜移植	35 件
緑内障	182 件	腫瘍	21 件
硝子体	652 件	眼形成	11 件
網膜復位	54 件	斜視	25 件

入院患者数 年間 1972 人 月 164 人  
 外来患者数 年間 22917 人 月 1910 人  
 新患 年間 2139 人 月 178 人

### 3. 診療科の体制

篠田啓	運営責任者 診療部長 教授	網膜硝子体疾患、視覚生理学
板谷正紀	教授	網膜硝子体疾患、緑内障、眼底イメージング、技術研究開発
加藤直子	准教授	角膜疾患、屈折矯正、眼光学、眼病理
木村至	准教授	緑内障、眼循環、眼底イメージング、ゲノム研究
樺澤昌	講師	網膜硝子体疾患
山田教弘	講師	網膜硝子体疾患、角膜疾患、遺伝子疾患
庄司拓平	講師	緑内障、網膜硝子体疾患、眼底イメージング
渋谷雅之	助教・医局長	網膜硝子体疾患
村山耕一郎	客員教授	神経眼科、緑内障、遺伝性網脈絡膜疾患
小島孚允	客員教授	眼腫瘍
石川弘	客員教授	神経眼科
野寄忍	非常勤講師	糖尿病網膜症
大木隆太郎	非常勤講師	糖尿病網膜症、ぶどう膜炎、涙道疾患
眞鍋洋一	非常勤講師	屈折矯正、白内障
紛澤伸介	非常勤講師	網膜硝子体疾患、網脈絡膜微小循環
福本光樹	非常勤講師	特殊コンタクトレンズ
土橋尊志	非常勤講師	遺伝性網脈絡膜疾患、加齢黄斑変性症
今井大介	非常勤講師	網膜硝子体疾患
林孝彦	非常勤講師	角膜移植
上山数弘	非常勤講師	斜視、弱視

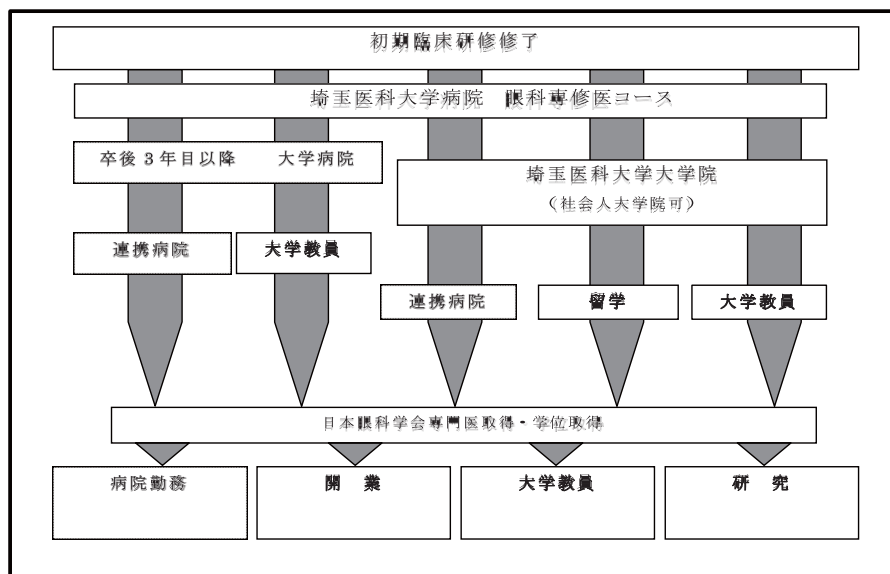
### 4. プログラムの目的と特徴

2年間の臨床研修を修了した医師に対して、将来、眼科専門医をめざす医師のためのプログラムです。4年間の眼科研修を行う事により、眼科医としての基礎的臨床能力を身につけ、日本眼科学会専門医制度の眼科専門医試験受験資格を得ることができます。当科は日本眼科学会専門医制度による眼科研修プログラム施行施設（認定第 1032 号）として承認されています。本プログラムにより、眼科臨床医として基礎をしっかり身につけることができるとともに、キャリア形成の方向性が見いだされ、それに応じて大学院、海外留学、国内留学など幅広い選択肢のなかから選んで自分に合ったキャリア形成を開始することができます。基礎として、幅広い症例を経験することで診断力と治療、周術期管理が身につきます。特に、プログラム初年度から上級医の指導の下、白内障手術の執刀を開始し完投を目指します。手術に必要なのは繰り返しの学習と自信です。徹底した手術教育を行うことで、技術と自信が自ずと高まる様になります。

### 5. 取得可能な資格

入局後 4 年修了時に日本眼科学会認定眼科専門医の受験資格を得ます。

## 6. キャリアデザイン



## 7. 大学院

### <目的と特徴>

どの時代の医療においても自ら考え、創意工夫を行い、証明する力を養うことが医学教育の王道です。

最終的な医師の力は、これに拠るといっても過言ではないでしょう。この力を養う効果的な方法は、大学院でゆったりと時間をかけて疾患の病態解明、原因探索、診断法の確立、治療法の開発などに専心することにあります。大学院教育は、本質を見極める能力、論理的に結論を導き出す能力、伝える能力を養います。また、国内学会、国際学会を通して国内外の眼科医との交流を深め、広い視野で医学に携わる医師に育てます。国内外への留学へと発展するきっかけになることも期待します。2年間の臨床研修を修了した医師に対して、原則4年間の大学院期間において眼科臨床と共に遂行した研究成果を学位論文として提出し、大学院課程の終了した者に医学博士の学位が授与されます。

### <カリキュラム>

2年 シニアレジデントカリキュラムに準じ、最初の2年間は、まず一般眼科医の基礎をとして必要な、解剖、生理、病理などについて講義を受けます。同時に臨床医として外来、病棟で診療にあたり、眼科の内科的側面、外科的側面について学びます。とくに手術学理論を学ぶとともに、あらゆる眼科手術の介助を实践して手術手技を学びます。1年目より白内障手術の模擬手術トレーニングを経て、実際の白内障手術の執刀を開始し完投を目指します。

4年 後半の2年間では、前半の2年間に基に、指導教官と相談の上、興味のある点領域を研究テーマとして構想しましょう。研究グループに属して行われ、実験およびデータ採取、データ整理と管理、論文のまとめ方など一貫した丁寧な指導を行います。

8. 連絡先 : 眼科  
担当者名 木村 至 (教育主任)  
TEL : 049-276-1250 (医局直通)  
FAX : 049-295-8002  
E-mail : kimura@saitama-med.ac.jp